

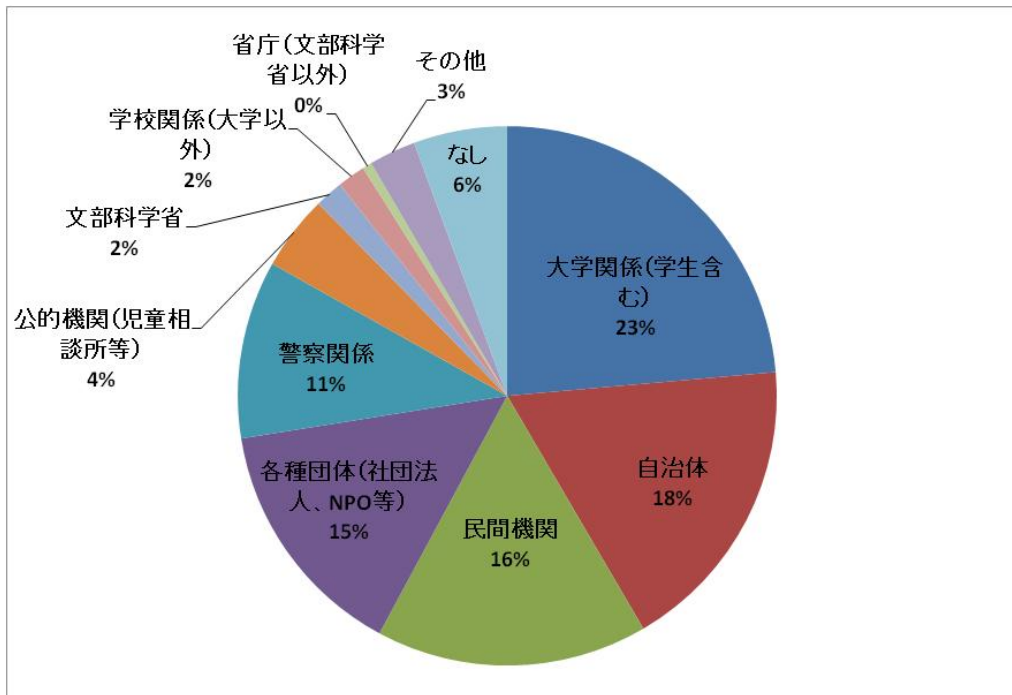
平成22年4月15日(水)
「犯罪からの子どもの安全」領域

第3回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム
いざというとき なにが頼りか ーどう身を守り、どう助けるかー
アンケート結果

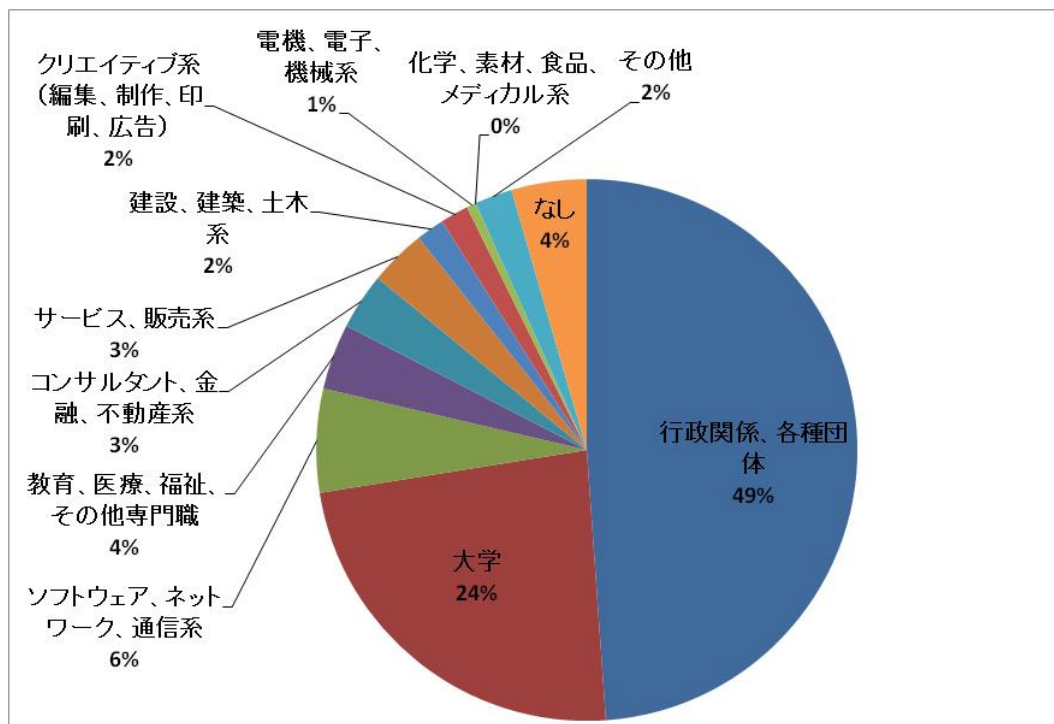
1. 集計結果

1-1. 参加者(253名)

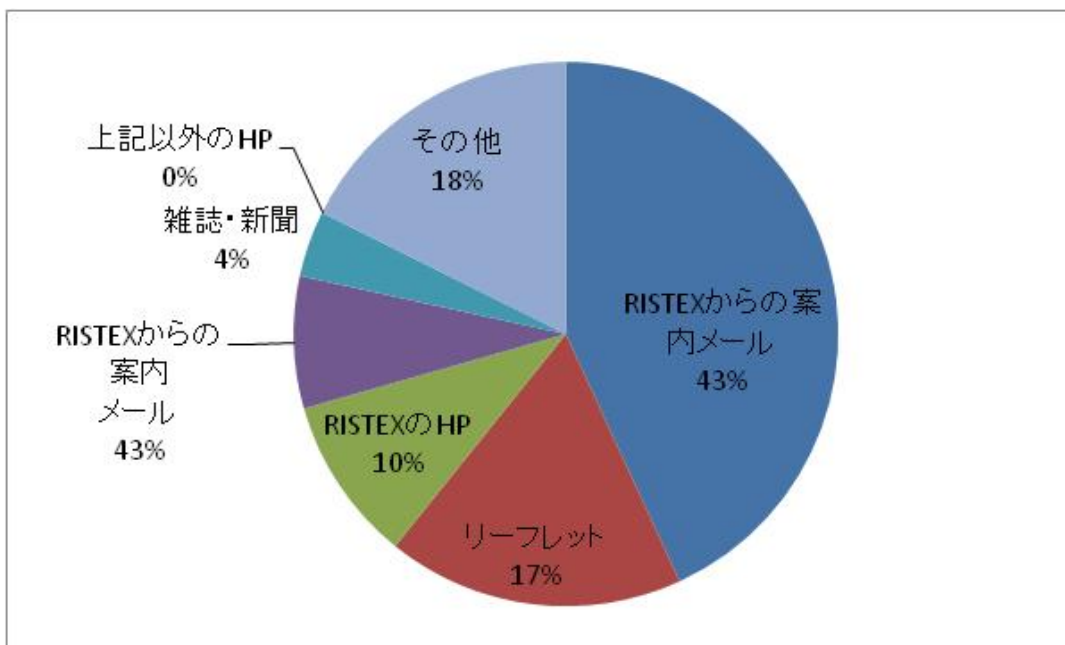
● 所属機関別内訳



● 業種別内訳

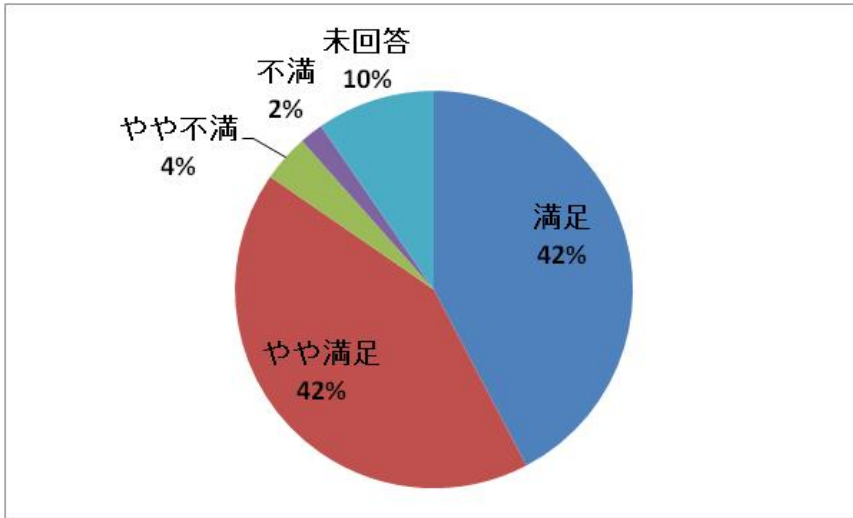


● シンポジウムの開催をどのように知ったか

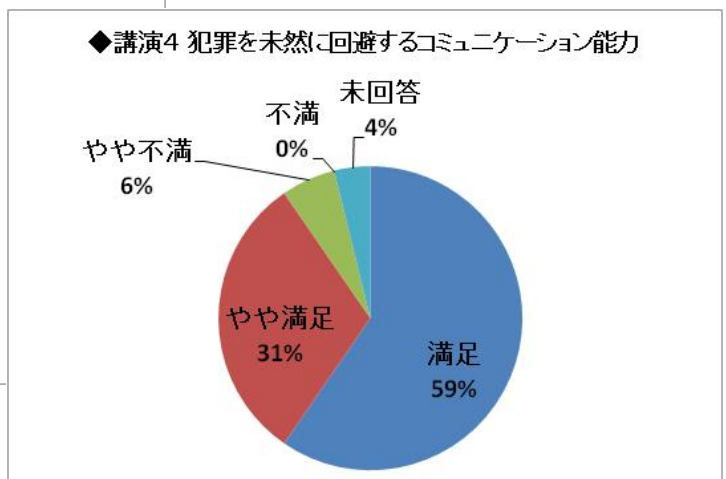
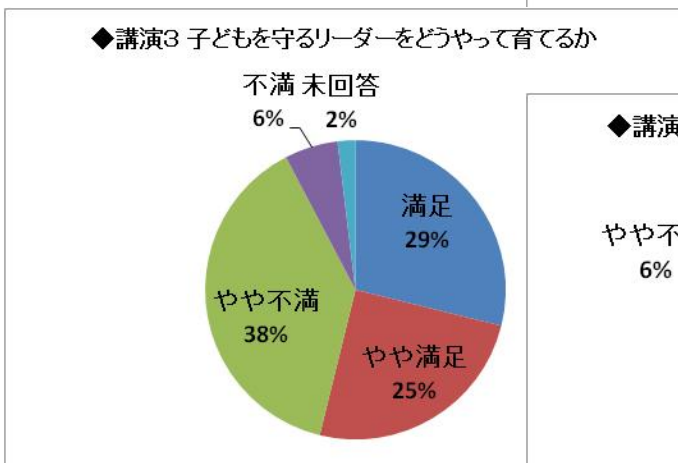
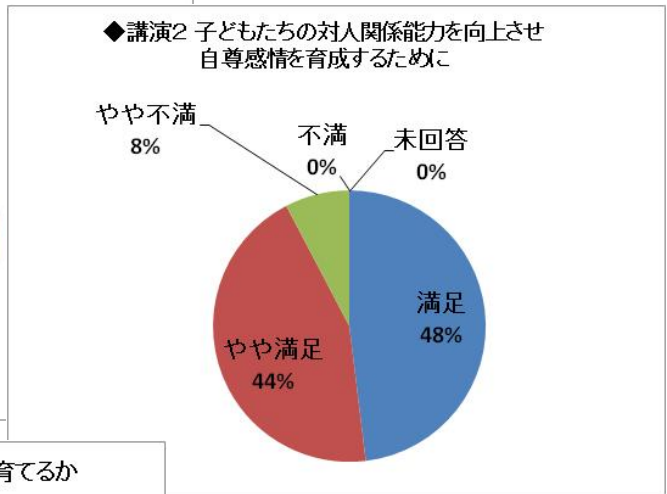
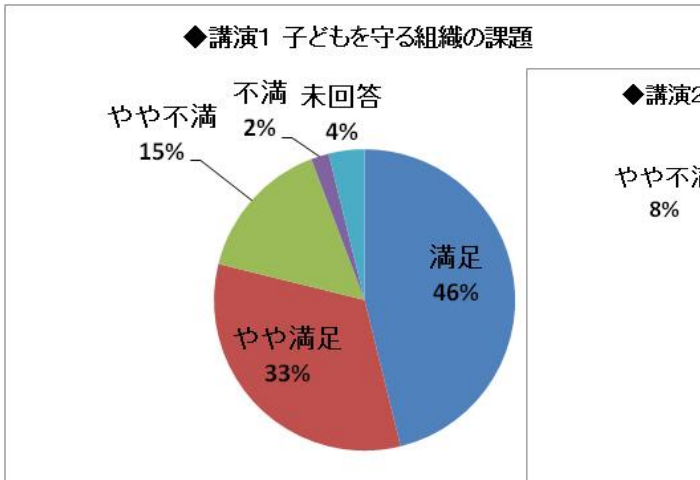


2-2. アンケート集計結果

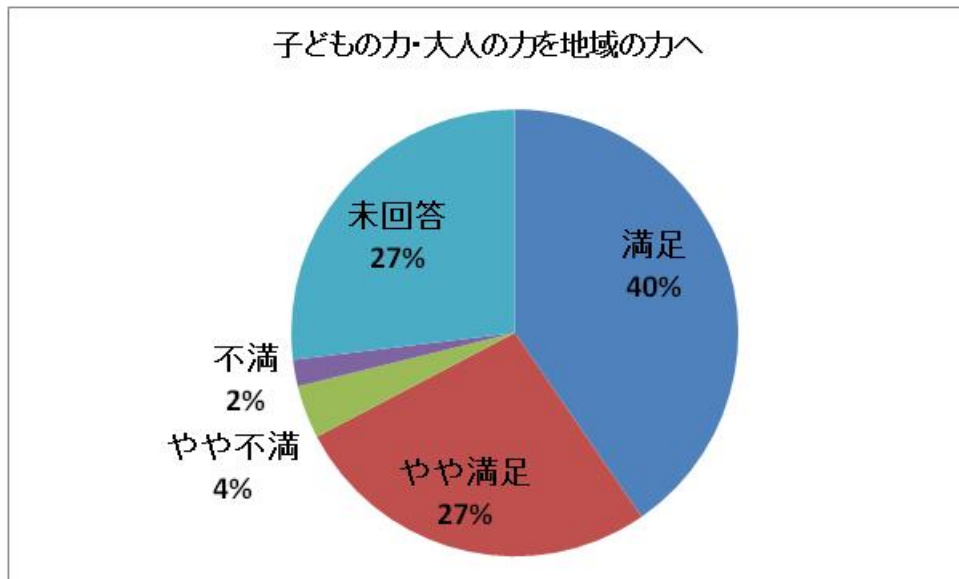
● シンポジウム全体について



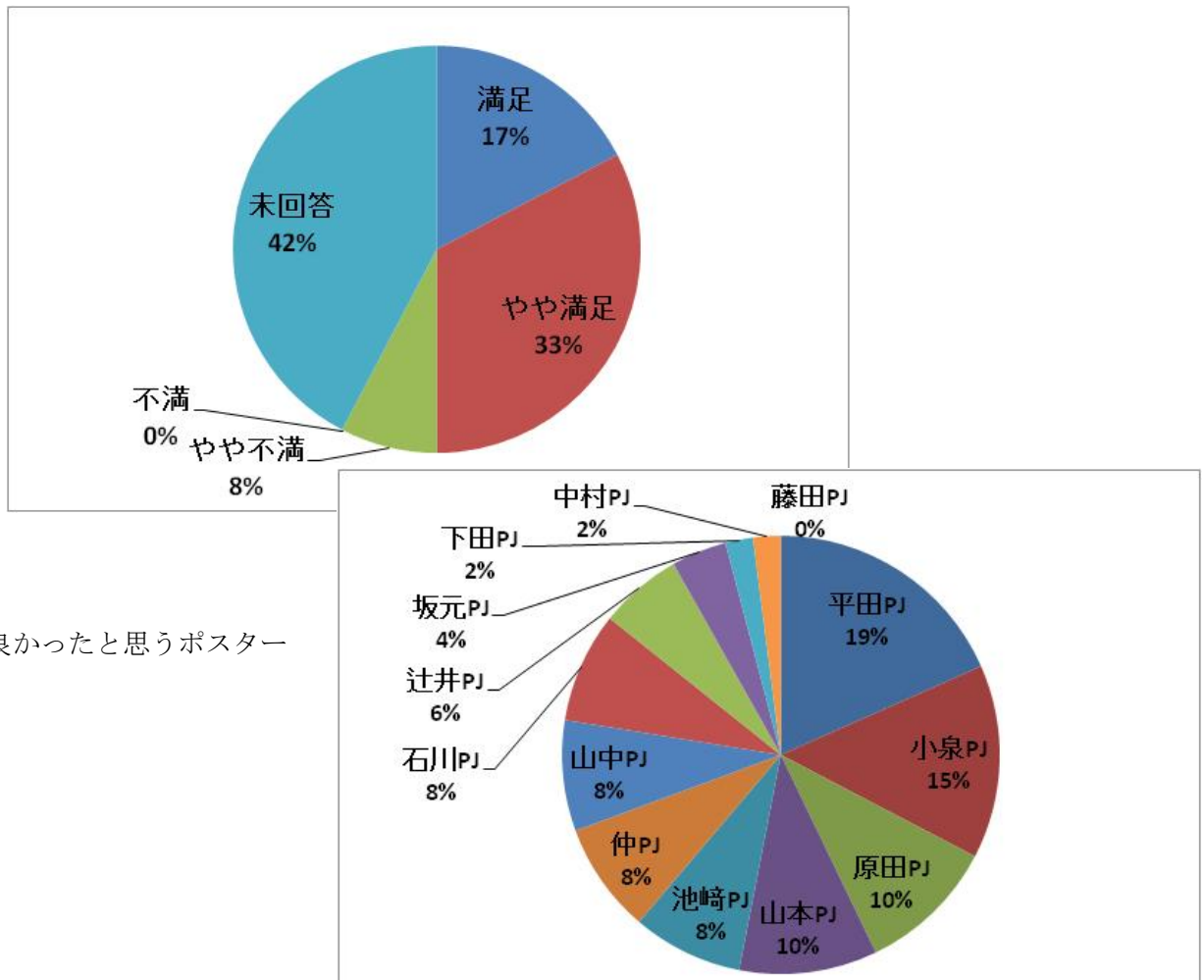
● 講演について



● パネルディスカッションについて



● ポスターセッションについて



1-3. 主なご意見・ご感想

【講演1 子どもを守る組織の課題】

- ・ Law Enforcement の法的制限・限界について知ることができた。取り組みについて知った。実務者も研究者の役割の重要性を認識していることを知り、嬉しかった。
- ・ 警察、学校及び教育委員会、児童相談所の連絡は良いことと感じた。また、保護観察所と連携し、非行少年の再犯防止についても、プライバシーの問題はあるが、連携できることを課題としても良いと思いました。
- ・ 地域における防犯への取り組みに警察がどの様に関わるのか、サポートするのかももう少し具体的なビジョンがほしい
- ・ パワーポイントの見せ方に工夫がほしかった。文字だけはみづらい。「課題」はわかったが、なぜ「連ケイ」なのか、研究PJの内容と絡めて説明がほしかった。

【講演2 子どもたちの対人関係能力を向上させ自尊感情を育成するために】

- ・ 知識を受け入れるだけの「対人関係能力」を育てることが重要ということに改めて考えを深めることができた。知識の一人歩きが起きているように思えるので、参考になった。
- ・ 子供が言語で伝えられない嫌悪感（人に対する）を処理できないので、暴力に走ってしまうことを知った。それがキレるということの一種だとは知らなかった。
- ・ 学校教育で重要な課題であるが、もう少し突っ込んだ議論、分析が必要だと思う。対人関係に悩む教師の存在が大きくなっている現状で、誰が担い手になるのか。
- ・ 興味深い内容でしたが、後半の説明がやや抽象的になり残念でした。

【講演3 子どもを守るリーダーをどうやって育てるか】

- ・ 自治体の防犯担当として一番興味のあった講演。プロジェクトのホームページで詳しく調べてみたい
- ・ ソフトな見学的なボランティアさんが多数である中、攻めのボランティアさん方が増えるような視点からの取り組みに感じた。地域の力、人材を活用し、自分の身は自分で守る、自分の地域の子どもは自分たちが守るという意識を循環していくことが大切ですね。
- ・ 教育、研修プログラムが複雑な印象。リーダー育成は確かに容易ではないが、警察、自衛官 OB や熱意のある人材を発掘するしかないのでは？リーダー像がイメージしにくい（パーフェクトな人材はムリ）。
- ・ パワーポイントにグループ内でのタテワリ構造が表れており、PJの全体の構造がよくわからなかった。現場でリーダーになりうる人は高齢者やPTAなどだが、本当に実装は現実的か？テキストは教師向けのよう。また、「コーディネータ」とはどのような人か？負担が大きいのでは？

【講演4 犯罪を未然に回避するコミュニケーション能力】

- ・ 子供（小学生）に参加、考えさせる事が非常に良い。防犯に限らず小中学校の一教科（道徳でも可）に入れて、週一講座の授業にすべき。
- ・ PETA など海外の演劇による子どもの社会参画をみてきたが、やはり演劇によるコミュニケーション力向上の効果が子どもをとりまく多様な問題解決につながりそうなのがわかった。
- ・ 演劇教育に大いに関心を持ったが、成果が分かりにくい。教師の役割を含め、継続的取り組みへのアプローチが不明瞭。
- ・ 悪役にサングラスをかけさせないで欲しい・・・不審者のイメージ固定につながり危険です。お話自体はとても興味深かったです。

【パネルディスカッション 子どもの力・大人の力を地域のカへ】

- ・ 本音の議論が聞けた。司会の山本さんが上手でした。「排除しないことの大切さ」!!! この議論がすばらしかった。
- ・ 参加者との議論（討論）形式はとても有意義で今後もその様な方式がいいと思う。更にはパネリスト同士の議論（個別テーマで）があっても面白いと思う。
- ・ 全体の方向性がみえなかった。一応議論の方向があった方がよかったのではないか。

【その他】

- ・ もう少し、現場の声（子ども、教師、親、地域住民・・・）を紹介してほしい。「私たちは、こう考えて、こうやっています」と一方通行的な講演だったように思います。やはり検証データが求められるところですので、その指標も示して残りの研究にとりくまれ、教えていただければありがたいです。
- ・ 最初のあいさつにあったように一般の方（保護者、先生）に参加して頂けるような工夫をしたらもっと有意義になるのではないかと思います。
- ・ 公的機関（警察・児童相談所等）や教育機関というある意味子どもの防犯の専門機関の枠をこえて、地域全体のコミュニティ機能をどう底上げしていくか、多様な担い手の連携の仕組みの研究を期待しています。
- ・ 似た研究がいくつもあるので、一つのテーマをPJ毎にどう取扱っているか、という見せ方もいいのではないか。